

反戦牧師 原点のヒロシマ

群馬在住の岩井さん 流川教会を訪問

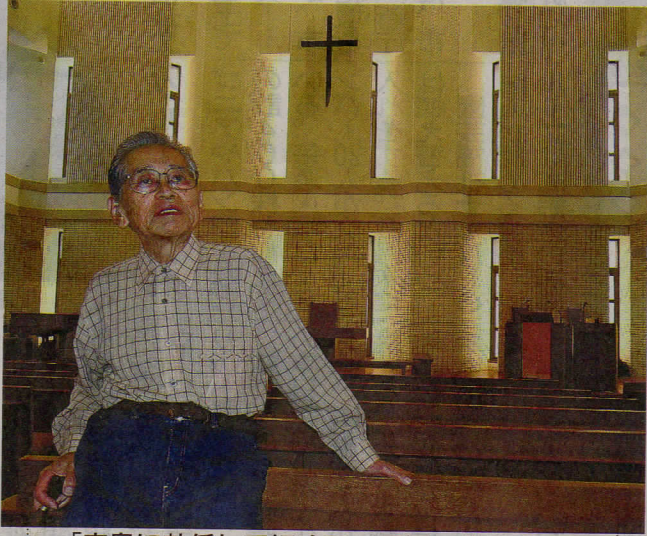
被爆から13年後に広島流川教会(広島市中区)へ赴任し、伝道師として布教に当たった牧師岩井健作さん(82)「群馬県高崎市」が、同教会を十数年ぶりに訪れた。呉市や岩国市で反基地運動に携わるなど、自身の反戦運動の原点となった被爆地の思い出を語った。

(石川昌義)

同志社天大学院で神学を中区鉄砲町)にあった広島学んだ岩井さんは1958年流川教会は52年、再建され年春、広島に赴任した。家族を失った被爆者の悲嘆に耳を傾け、各地の墓碑に刻まれた「8月6日」の文字に触れるうちに「被爆の傷痕の生々しさを実感した」という。

被爆当時、上流川町(現

ケロイドが顔に残る女性信徒とも知遇を得た。



「広島に赴任して初めて、原爆の非人道性を知った」と広島流川教会で振り返る岩井さん

被爆者の声聞き 社会運動へ

「米国留学の経験もある谷本さんは、原爆を使った国家の非人道性と、被爆者に心を寄せる米国人の温かさを両方、知っていた」と岩井さん。「国家と個人について深く考えるきっかけを与えてくれた」と振り返る。

岩井さんは60年、牧師として呉山手教会(呉市)に転任。基地の街で原水禁運動に取り組んだ。岩国教会(岩国市)に赴任した65年以降はベトナム反戦運動に参画。被爆者の支援にも携わった。

広島流川教会の招きで広島を訪れた岩井さんは8日、同教会で説教に立った。70年の上磯町の現在地に移転し、2013年に新築された教会の礼拝堂で「キリスト者として社会運動に関わる芽生えの地が広島だった」と感慨を込めた。

広島から自宅に戻った10日夜、オバマ米大統領の広島訪問が決まった。岩井さんは「米国のトップとして被爆地に立つ以上、原爆を使用した罪と責任を真正面から見据えた言動が必要。多くの被爆者の悲しみを理解してほしい」と訴える。